

指定管理者管理運営評価シート

別紙 2

平成 30 年度

1 施設の概要

指定管理施設名 (施設所管課)	稲美町立いなみ野水辺の里公園 (教育政策部 生涯学習課)
指定管理者	NPO 法人 環境ユースイングてんま 代表者氏名 小村 徹
指定管理期間	平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
指定管理委託料	11,555,000 円 (平成 30 年度)

2 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画	実績	自己評価
運営状況	・開館日数・開館時間等	<p>・稲美町立いなみ野水辺の里公園の管理運営に関する規則第 2 条第 3 条を遵守した。</p> <p>・開館日数は 305 日 (休日は、60 日)</p> <p>・開館時間はホテルの一般公開のため 5/25~6/9 の延べ 16 日間同上の規則に従い開園を 21 時まで延长了。</p>	A
	・委託事業、自主事業の実施	<p>・稲美町立いなみ野水辺の里公園指定管理者協定書並びに仕様書に従い本業務を実施した。具体的には下記事業を実施、参加者への支援指導を行った。</p> <p>・自然体験イベント・セミナーの実施</p> <p>食育事業「我が家のお芋畑」 自然体験事業「バツとり大会」「木の実で染めよう」「そうめん流しとワイワイ夏祭り」「夏休みお助け工作（3 回実施）」「その他」を実施。</p> <p>・環境学習の受け入れ（5 回） 延べ 275 名</p> <p>・役場・他 NPO 法人との連携協力事業を実施。</p> <p>・学習棟内の展示</p> <p>①常設展示は、観察コーナー調べるコーナー・遊ぶコーナー生きもの展示があり、常に良好な状態を維持した。</p> <p>②季節展示は、6 回の展示替</p>	A

		<p>えを行った。又、「巻紙」「子ども工房・木のおもちゃ」「切り絵」等協力者による展示も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚のおうち管理 水草清掃、魚のエサやり、水温の管理等日常管理を一定時間実施し、又、休日にはボランティアの協力を得て魚の補充を行う等一定水準の管理を行った。 ・ちょうのおうち管理 ボランティアの協力にてギフトチョウやアサギマダラやオオムラサキの羽化させることができた。 公園内でみられる蝶も一定量飼育した。 ・ホタル育成事業 29年度から開始した水路や周辺的环境整備が実り、初年度にしてMAX35匹/日の発生があり多くの一般来園者に観賞を楽しんでもらった。 ・アサギマダラ蝶の飛来増加事業 H30年10月に飛来に刺激されR元年10月の飛来促進のためフジバカマ苗作りをした。 ・蝶の標本展示会 7/23～7/29 蝶のサポーター所蔵の標本と園内手持ちの国内外の珍しい蝶の標本をわかりやすい解説を付けてコスモホールロビーにて展示。同時にクイズや展翅教室も実施した。 ・兵庫大学とコラボ2年目 ①「夏祭り」の企画・運営 学生15名参加 ②セミナー「我が家のお芋畑」のボランティア 夏祭りでは従来の方法を効果的に改善したり新発想のゲーム等を考えるなど充実した企画を作成。祭り当日も 	<p>に目を向けるように工夫したい。また、たくさんの本があるので子どもたちに興味をもってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きもの相手であり、手を抜くと悪化しやすいため、神経を使う管理である。 また、同程度施設の見学などで改善点を追求したい。 ・蝶の生育に時季があるため年中の飛蝶は、困難であるがボランティアの協力で、卵から成虫までの観察ができるようになった。 ・H29年度の環境整備には労力を要したが、結果が出た。 第1回目ホタル観賞会、一般公開で延べ約3000人の来園者があった。 ・公園での楽しみを増やすことになり、できる限りトライしてみたい、3年間でフジバカマを増やす足掛かりを作った。 ・あまりみかけることのない種類の標本で、展示の価値は十分にあった。又、公園のPRにもなった。 ・近隣の教育機関とのコラボを継続することができた。公園最大のイベントの夏祭りは、人材不足となるがマンパワー的にも学生の新しい企画で、楽しさも大いに向上した。
--	--	--	---

		進行役を行う等協力を得た。		
・利用者の満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との直接会話やアンケート等から判断して不満は皆無であった。 ・すべてのイベント・セミナーで申込者が増加し続けている。(募集後即締め切りになる申し込みがある) ・家族による昆虫採集、ザリガニなどの水性生物捕り、どんぐり拾いなどの自然遊びや団らんの場として多くの利用があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内でのイベントは、可能な限りマンネリ化しないように工夫している。ニーズにあったものに積極的に取り組んでいる。 ・幼児の園内利用はほかの利用者の目にも微笑ましく、続けられるよう安全に確保したい。安全の確保については、保護者の意見も聞き対応した。 ・さらに当公園の知名度を高めたり、環境管理の良さ、イベントの楽しさ等あらゆるプラス要素を利用者の満足度に直結させ来園者の増加につなげたい。 	
・その他(特記事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境啓発事業 ため池ミュージアム事業に位置を受けた事業で、外来種駆除の一環として「夏祭り」にて専門講師からミシシッピアカミミガメの生態説明及び解体の実演を行った。 ・トライやるウィークに於いて中学生5名を受け入れ、看板作り、ベンチ作り、公園管理など自然環境の大切さを指導した。 ・加古福祉会館で子育て支援事業に参画し、「生きものすくい」を出展した。 ・コスモス児童館との協働「親子のつどい」で藍染め体験を実施した。 ・NPO法人ころあい自然楽校との協働「親子でリース作り」教室を実施した。 ・加古川市のNPO法人との連携で4年連続して福島県で被災した小学生21名を受け入れ、そうめん流し及びゲーム等を行い思い出に残る楽しい一日を提供した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の取り組みにより、県民局、ため池協ミュージアム、町行政、NPO法人、専門講師等との連携が濃密になり、協働事業としての成果が表面化するに至ったと考える。 これらの実績をベースとして活かしさらなる運営の上積みを図らなければならない。 	

		・東播磨ビジョン委員会の事業に協力、東播磨文化施設ネットワーク化事業に参加した。		
施設維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃 ・植栽等管理 ・警備 ・設備保守 ・修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃及び警備は委託とし、連絡協議により円滑に管理できている。 ・警備会社の移管も円滑に対応した。 ・植栽管理は直営式とし、季節に応じた花壇整備を行った。 ・園内の不必要な雑草除去は、必要に応じ社員により順次実施した。 ・保守修繕は、日常点検により早めの対応を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内整備は、セミナーに対応しながら計画的に、草刈りや枝の剪定を行った。 ・建物、橋、護岸などの構造物は、安全上重要であり、適宜点検を行った。 ・エントランス花壇は、工夫したことで、来園者からも好評であった。 ・草刈などは、生き物の生育に考慮し、時季、範囲を明確にして実施した。
	・その他（特記事項）	・台風により折れる恐れのある樹木の大规模剪定を町行政に依頼、実施していただいたことで大枝の折れることが減少した。	A	・3～5年枚に定期的な大规模剪定を行いたい。
利用状況	・利用者数	51,528人/年 (実働305日)		・着実に毎年、家族連れのみならず、来園者が増加しているが、今年度は特別にホテルの一般公開による約3000人が大きな増員要素となっている。
	・施設稼働率	170人/日	A	・ホテル関係を除けば昨年並みであった。
収支状況	・収支計画	・指定管理料と各種補助金やイベント・セミナーの参加費などの歳入に合う支出計画を実施した。	A	・毎月、予実管理を行い、収支状況を把握しており予算管理上の問題はない。
	・経費削減の取組み	・社員の特性を活かし、できることは社員で対応した。	A	・地域からの物資協力などもあり、効果的な削減ができた。
運営体制	・人員配置	・全ての運営事業並びに公園の維持管理に支障のないよう適切に人員配置した。大きなイベント等社員で不足する範囲はボランティアの協力で対応した。	A	・通常は、できる限り2名以上の複数人配置を考えて、事務処理や来園者対応の体制をとった。
	・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯と景観共に留意して樹木の伐採を行った。 ・台風被害の折れ枝等は、速やかに除去し飛来しないように処置した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実。災害を想定した点検と勤務対応を心がける。 ・来園者の安全を第一に考えた管理を徹底している。

		・スズメバチなどは、日常点検及び来園者情報により速やかに処置した。 除虫剤を常備し緊急処置に備えている。		
	・苦情要望等への対応	・当年度は苦情・クレームは無かった。	A	・クレームに対しては速やかに対応することとしている。 又、所管課へ迅速に報告し、場合によっては協議を行うこととする。
	・個人情報の保護及び情報公開	コンプライアンスの事例による周知。情報公開への確認。	A	公園だよりやブログ、写真掲載などに対し、許諾を必須条件としている。
	・その他（特記事項）	・日常から地域と密接な交流を通じ、協働できる体制を維持した。 ・魚の飼育に詳しい人物を委嘱雇用し、安定した魚のおうちの管理を維持した。 ・メディアへの情報発信の体制を整え、取材を増やした。	A	・サポーターによる標本の整備及び、園内のチョウの生態調査を行った。 ・週3回×3Hの勤務で魚のおうちの管理が行き届いた。 ・ホタル学習会など充実した情報発信ができた。
			総合評価	A 各種団体との協働を活かし、充実した公園管理及び事業運営を実施した。 特記すべきは、ホタルの育成に成功、多くの人を呼び込むと共に来園者増加にも大きく寄与した。

3 施設所管課による一次評価

総合評価	A
------	---

ホタル観賞に向けた取り組みとして、水路周辺の整備、ホタルの幼虫放流、カワナ採取等の環境整備を行うなど積極的に事業を展開しており、今年度のホタルの飛翔につながった。ホタル鑑賞会や一般公開により、今後、新たな利用者の開拓や、リピーターの確保が期待できる。

施設の維持管理は、協定書等に基づき適正に行われており、季節の移り変わりを反映した講座実施に向けて、地域のボランティアやサポーターとともに準備を行うことにより、経費の節減、地域との協働を図っている。

町内外の幼稚園や小学校を始めとする園児・児童の見学の受け入れだけでなく、県主催の事業の講師なども担当し、自然の姿を再現した公園のPRをしつつ、環境教育の一端を担った。

今後も水辺の里公園の名にふさわしく自然に親しむことのできる公園の魅力をさらに向上させつつ、より多くの住民の憩いの場となるように切に期待する。

4 内部検討委員会による評価

総合評価	A
------	---

管理運営については、協定書通りに行われていて適正である。

地域団体と連携したイベントや新規事業にも積極的に取り組んでいることは評価できる。ホタルの育成についての取組を昨年度に引き続き行い、利用者の開拓に努めている点についても評価できる。今後とも来園者のニーズに応じた魅力的なイベント等の開催により、さらなる利用者の増加に努められたい。

アンケートの結果から、利用者の高い満足度を得ていることは高く評価できる。今後とも施設が良好な状態に保たれるよう維持・管理に努められ、あわせて持続可能な運営体制を確保されたい。